

石川縣健康相談所ニ於ケル種々ナル統計的報告

前 編

諸種事業成績並ニ非結核性疾患ニ就テノ統計報告

醫學博士 中 島 信 一

Shinichi Nakashima

醫 學 士 竹 谷 幸 太 郎

Kōtarō Takeya

(昭和13年2月13日受附)

内 容 抄 録

昭和10年ヨリ同12年ニ至ル石川縣健康相談所ニ於ケル統計報告ノ前編デアツテ、種々ナル事業成績並ニ非結核性疾患ニ就テノ統計的成績ヲ收録シタ。始メニ府縣立健康相談所ハ結核豫防相談所ナル所以ヲ説キ、次ニ現在行ヒツツアル事業ヲ紹介シ、其ノ機能ガ年ト共ニ發展充實シツツアルコトヲ數字ヲ以テ解説シ、非結核性疾患ハ更ニ之ヲ16ノ所屬系統ニ分ケテ表示シ、呼吸器系統ノ疾患、潜在乃至初期菌氣、肋間神經痛等ノ如キ結核ニ共有ノ自覺症ヲ呈スル疾患ガ年々増加シ、之ニ反シ常識的ニ判斷シテ一見結核ト何等關係ヲ有セ

ザル疾患ハ漸次其ノ數ヲ減ジテキルコトヲ示シ、他方診察ノ結果異常ヲ發見シ得ザルモノノ來訪數ガ、年々躍進的ニ激増シテキルノハ個人乃至團體ノ結核檢診ガ漸増スル爲デアツテ、結核早期診斷ニ對スル理解ノ深マリト考ヘラレ、更ニ年齢的ニ觀テモ所謂結核年齢ト稱セララルル15歳ヨリ24歳迄ノモノガ最も多イ事ヲ示シテキル。即チ之ヲ要約スレバ結核相談所ニ於テハ非結核性患者ト雖モ其ノ來所ノ目的ガ漸次相談所ノ希望スベキ方向ニ動キツツアル事ガ數字的ニ如實ニ示サレテキル。

目 次

前 編
第1章 ハシガキ
第2章 總括年表
第3章 新來病類數
第1節 結核性疾患

第2節 非結核性疾患
第3節 年齢別並ニ月別ニ觀タル成績
第4章 郡市別ニ觀タル患者數
結 論

前 編

諸種事業成績並ニ非結核性疾患ニ就テノ統計 報告

第1章 ハシガキ

本編ハ昭和10年1月ヨリ同12年末ニ至ル3年間ノ石川縣健康相談所ニ於ケル種々ナル成績ヲ統計的ニ収録シタモノデアル。

府縣立健康相談所ハ周知ノ如ク結核豫防相談所デアツテ、結核療養所ト共ニ結核豫防施設ノ基礎ヲナスモノデアリ、兩者ガ完備シテ初メテ結核豫防ノ實ガ擧ゲ得ラレル。

獨逸デハ之ヲ *Auskunfts- und Fürsorgestellen* ト稱シテ居リ、英米佛等ノ *Dispensary, Dispensaire* ト云フモノモ大體ト一致シテキル。

其ノ設備ニ於テ米國費府ノ *Henry phipps-Institute* ノ如キ其ノ代表的ノモノデアリ、其ノ機能ノ發達サニ於テハ同國ノ *フレミングム町* ノ相談所ノ如キハ世界ノ模範トスルニ足ルモノデアラウ。

結核豫防相談所ハ結核死亡100人乃至人口10萬ニ對シテ1ヶ所ヲ設置スルヲ以テ適當トセラレテキル。

本邦ニ於テハ昭和7年度カラ「ラヂオ納付金ニヨル結核豫防施設」トシテ結核豫防相談所ガ創立セラレ、7年度ニ26ヶ所、8年度ニハ19ヶ所、9年度ニハ17ヶ所、10年度ニハ14ヶ所、11年度ニハ16ヶ所ト漸次累増シテ92ヶ所ノ常設相談所及丙種相談所ヲ合シテ129相談所トナリ、更ニ昭和12年度ニハ常設相談所31ヶ所、乙50ヶ所、丙種相談所48ヶ所合計129ヶ所ガ増設セラレテキル。

上述ノ中甲種相談所ハ2名以上ノ醫師、4名以上ノ看護婦及1名ノ事務員ヲ置キX線裝置ノ設備ヲ有スルモノデアリ。乙ハ醫師1名看護婦2名ヲ置クヲ立前トシテキル。

石川縣ハ金澤市ニ1ヶ所ノ甲種健康相談所ヲ有シ、醫師2名、看護婦3名、事務員1名、消毒夫1名ヲ以テ組織サレテキル。

「レントゲン裝置並ニ太陽燈浴室ノ設備ヲ有シ、次ノ如キ機能ヲ發揮シツ、アル。

1. 相談及診断
2. 結核特殊治療(主トシテ人工氣胸療法)

3. 患者ノ入院斡旋
4. 外來患者ノ指導保護
5. 在宅患者ニ對スル訪問ニヨル指導保護
6. 患者家族ニ對スル豫防指導
7. 結核死亡者家庭訪問ニ依ル家屋消毒並ニ遺家族ノ健康診断勸誘
8. 恢復期ニ於ケル指導保護
9. 公衆ニ對スル結核豫防撲滅ニ關スル指導教育
10. 虛弱兒童ニ對スル太陽燈照射

尙ホ本縣相談所ノ創設ハ昭和9年デアアルガ、當初ハ普通民家ノ庇ヲ借りテ開設シタモノデ、其ノ存在ノ微々タル殆ンド一般ノ認識ヲ得ルニ至ラナカツタ。

越エテ10年2月ニ現在ノ味噌藏町ヘ移轉シタノデアツタガ、移轉早々主任醫タル中島ガ病床ニ臥シ、爾來3ヶ月醫師1人ニテ診療ニ從事シナケレバナラナクナリ、甚ダシク機能ノ圓滑ヲ缺クノ不幸ニ際會シタノデアツタガ、中島ノ全快ト前後シテX線裝置ノ設備ナリ同年6月頃ヨリ相談所トシテ本格的ノ機能ヲ發揮シ得ルニ至ツタ。

爾來職員一同ノ大ナル努力ニヨリ漸次相談所ノ事業ニ對スル縣民一般ノ認識ヲ得ルニ至リ、訪所者モ逐年増加ノ一途ヲ辿リ、現在ニ於テハ其ノ成績ニ於テ全國相談所ノ優位ヲ占ムルニ至ツタコトハ、我々ノ竊カニ悦トスル所デアアル。本縣ニ於テモ、此ノ度235床ヲ有スル縣立結核療養所ガ新設サレタノデ、之ト相俟ツテ健康相談所モ益々其ノ機能ノ圓滑ヲ期シ得ル事ト信ズル。

同相談所創始以來ノ大部分ヲ診療ニ從ツタ著者等ノ二人ガ、今度縣立結核療養所醫王園ニ轉出シタノデ、之ヲ機會ニ一應コレマデノ成績ヲ纏メルコト、シタ。

前編ハ主トシテ事業成績並ニ非結核性疾患ニ對スル種々ナル統計ヲ集録シタモノデアリ、後編ハ結核性疾患ニ對スル統計報告ヲ主眼トシタモノデアアル。

第2章 總括年表 (第1表—第3表)

之ハ基幹の年表デアツテ、1ケ年間ニ於ケルル。以下逐次之ニ解説ヲ加フルコトニスル。事業ノ大勢ヲ通覽スルニ便ナラシメタモノデア

第1表 昭和10年度總括年表 (自1月 至12月)

區 別		男	女	計	新 來 病 類 數					
受診者數	新 來	2105	2270	4375	結 核	第 一 次 肺 結 核	271	277	548	
	再 來	2555	2390	4945		第 二 次 肺 結 核	358	248	606	
患家訪問數		54	28	82	性 疾 患	濕 性 並 乾 性 肋 膜 癆 着 肥 厚	54	51	105	
死亡家庭訪問數		175	169	344		腹 膜 炎	9	31	40	
依頼消毒濟數				95		腸 結 核	0	3	3	
X 透 視		1501	1484	2985		泌 尿 生 殖 器 結 核	5	1	6	
線 撮 影		91	80	171		腺 結 核	10	26	36	
檢 査 數	檢 痰	10	11	21	非 結 核 性 疾 患	骨 結 核	15	24	39	
	檢 便	31	29	60		其 他 結 核	1	1	2	
	檢 尿	142	212	354		呼 吸 器	146	147	293	
	赤 沈					消 化 器	263	290	553	
	マ ン ト ー	394	385	779		循 環 器	89	95	184	
	人 工 氣 胸	209	234	443		神 經 系	96	123	219	
	處 置	152	147	299		泌 尿 器	47	57	104	
	太 陽 燈 照 對 數	5781	5899	11680		婦 人 科 疾 患		87	87	
						皮 膚・性 病・皮 下 組 織	47	51	98	
						骨 及 運 動 器	33	28	61	
				新 陳 代 謝・內 分 泌 系	81	109	190			
				性 傳 染 性 疾 患	2	4	6			
				視 器	7	5	12			
				聽 器	7	4	11			
				寄 生 蟲 病	23	29	52			
				體 質 病	16	12	28			
				其 他 疾 患	4	5	9			
				病 名 未 定	149	146	295			
				異 狀 ナ キ モ ノ	303	324	627			
					非 結 核 性 疾 患 總 計			1313	1516	2829

(1) 新來並ニ再來患者數

新來患者數ハ言フ迄モナク其ノ年度ニ於ケル新患者ノ總數デアリ、再來患者數ハ同一患者ニ就テ2回以上ノ訪所數ヲ合算シタモノデアル。新來並ニ再來數ヲ併セタモノガ延人員トナル。但シ單ニ太陽燈照射ノミニ來所シ、其ノ際醫員

ノ診察ヲ受ケナカツタ場合ハ之ヲ再來ノ中ヘハ加算シテキナイ。

公立健康相談所ハ特殊ノモノヲ除イテハ一般ニ治療行爲ヲナササルヲ原則トシテキルノデ、一般病院ト異リ再來患者數ハ甚ダ少イ。

11, 12年度ノ如キハ新來數ニモ劣ツテキル。

第 2 表 昭和11年度總括年表 (自 1 月 至 12 月)

區 別		男	女	計	新 來 病 類 數				
受診者數	新 來				男	女	計		
再 來	新 來	4640	5442	10082	結 核 性 疾 患	第 一 次 肺 結 核	375	452	827
	再 來	3443	3562	7005		第 二 次 肺 結 核	431	416	847
患 家 訪 問 數		37	20	57		濕 性 並 乾 性 肋 膜 炎	128	106	234
死 亡 家 庭 訪 問 數		159	192	351		肋 膜 癒 着 肥 厚	312	340	652
依 賴 消 毒 濟 數				141		腹 膜 炎	19	79	98
X 透 視	線 撮 影	3927	4421	8348		腸 結 核	0	6	6
	檢 査 數					泌 尿 生 殖 器 結 核	5	1	6
檢 査 數	痰 檢	5	10	15		腺 結 核	18	73	91
	便 檢	53	64	117		骨 結 核	38	77	115
赤 沈	尿 檢	271	459	730		其 他 結 核	7	5	12
	マ ン ト ー	66	62	128		呼 吸 器	387	377	764
マ ン ト ー	マ ン ト ー	674	839	1513		消 化 器	514	546	1060
	人 工 氣 胸	894	636	1530		循 環 器	166	173	339
處 置	處 置	157	191	748		非 神 經 系	286	367	653
	太 陽 燈 照 對 數	6056	5555	10611	泌 尿 器	50	106	156	
					婦 人 科 疾 患		146	146	
					皮 膚・性 病・皮 下 組 織	98	69	167	
					骨 及 運 動 器	92	67	159	
					新 陳 代 謝・內 分 泌 系	283	507	790	
					性 傳 染 性 疾 患	13	14	27	
					視 器	6	4	10	
					聽 器	11	15	26	
					寄 生 蟲 病	24	35	59	
					體 質 病	19	16	35	
					其 他 疾 患	10	5	15	
					病 名 未 定	121	119	240	
					異 狀 ナ キ モ ノ	1227	1321	2548	
					非 結 核 性 疾 患 總 計	3307	3887	7194	

即ち診断乃至相談ヲ本旨トシ、其ノ後ノ處置ハ治療施設ニ委ネルト云フ相談所本來ノ立前ノ顯レデアル。

尙ホハンガキニ於テモ述ベタノデアルガ、10年度ニ於テハ機能ノ凡テヲ發揮シ得ザル種々ナル事情ガアツタノデ、新來數モ比較の少イガ11年度ニ於テハ一躍シテ前年ノ2倍以上トナリ、12年度ニ至ツテ更ニ其ノ數ヲ加ヘテキル。

之ハ所員並ニ當路者ノ努力ニヨリ、相談所ニ對スル縣下一般ノ認識ガ漸次深マツタガタメニ外ナラス。

(2) 患家訪問

數患家訪問ハ看護婦ヲシテ當ラシメテキル。

之ハ毎年東京ニ於テ大日本結核豫防協會主催ノ下ニ行ハル、結核講習ヲ受ケ、看護婦トシテ結核ニ對スル充分ナル知識ヲ有スルモノヲシテ行ハシメテキル。之ヲ訪問看護婦又ハ社會看護婦ト稱シテキル。

醫師ノ勸誘又ハ患者側ノ希望ニヨリ訪問看護婦ヲ定期ニ患者家庭ヘ派遣シ、療養上ノ種々ナル相談ニ與リ、患者並ニ家族ノ狀況、生活様式、病室、家屋ノ構造等詳細ニ亙ツテ一定ノ訪

第 3 表 昭和12年度總括年表 (自 1 月 至 12 月)

區 別		男	女	計	新 來 病 類 數				
受診者數	新 來	5399	5904	11303	結核性疾患	第 一 次 肺 結 核	268	324	592
	再 來	4118	3800	7918		第 二 次 肺 結 核	371	339	710
患 家 訪 問 數		24	12	36		濕 性 並 乾 性 肋 膜 炎	83	76	159
死亡家庭訪問數		186	178	364		肋 膜 癒 着 肥 厚	356	427	783
依頼消毒濟數				134		腹 膜 炎	28	72	100
X 透 視		4740	4569	9309		腸 結 核	0	5	5
	線 撮 影	476	399	875		泌 尿 生 殖 器 結 核	1	4	5
檢 査 數	檢 痰	43	34	77		腺 結 核	4	30	34
	檢 便	46	31	77		骨 結 核	36	48	84
赤 沈	檢 尿	488	638	1126		其 他 結 核	7	3	10
	マ ン ト ー	1018	1105	2123		呼 吸 器	433	448	881
人 工 氣 胸		1003	621	1624		消 化 器	481	480	961
	處 置	110	101	211		循 環 器	135	121	256
太陽燈照對數		2669	2710	5379	非 結核性疾患	278	283	561	
					泌 尿 器	94	128	222	
					婦 人 科 疾 患		106	106	
					皮 膚・性 病・皮 下 組 織	78	50	128	
					骨 及 運 動 器	83	82	165	
					新 陳 代 謝・內 分 泌 系	430	655	1085	
					傳 染 性 疾 患	12	8	20	
					視 器	10	6	16	
					聽 器	17	5	22	
					寄 生 蟲 病	7	11	18	
					體 質 病	3	3	6	
					其 他 疾 患	8	7	15	
					病 名 未 定	78	77	155	
					異 狀 ナ キ モ ノ	2098	2106	4204	
					非 結核性疾患總計	4245	4576	8821	

問カード」=記入シ、之ヲ醫員=呈示シ、相談所ト患者トノ連絡ヲ保タシメルノデアルガ、所員ノ手不足ト患者側ノ理解ノ不足トノタメニ遺憾ナガラ本縣デハ此ノ方面ノ利用者ガ甚ダ尠イ。

改善ニ資スベキ私案ヲ著者等ハ有ツテハキルガ、經費其ノ他ノ點ニ於テ早急ノ實現ハ困難デアル。

(3) 死亡家庭訪問數

當相談所ハ金澤市廳ト連絡ヲトリ、結核死亡者ノアツタ場合ハ其ノ通知ヲ受ケルコトニナツテキル。ソレニ依ツテ該家庭ヘ訪問看護婦ヲ派

遣シ、病室ノ消毒並ニ遺家族ノ健康診斷ヲ勸誘スルコトニナツテキル。之ニヨツテ屢々初期結核ヲ發見シテ治療並ニ豫防ニ大ナル貢獻ヲナシツ、アル。市廳ヨリ報告ノアツタモノノミ訪問シテキルノデ、其ノ數ハ3ヶ年ヲ通ジテ略變ラナイ。

(4) 依頼消毒濟ニ數

之ハ死亡者家庭訪問=際シ家屋消毒ノ勸誘=應ジタモノノ數デアル。10年ヨリ11年ニカケテハ相當其ノ數ヲ増シテハキルガ、未ダ希望者ハ僅々3軒=1軒ノ割合デアツテ北陸人ノ消極性

ヲ物語ツテキル。

(5) 「レントゲン検査

”Ohne Röntgen keine Medizin“ハ現代臨牀醫家ノ齊シク痛感スルトコロデアリ、殊ニ肺結核早期診断ノ如キハ「レントゲン装置ナクシテ正鵠ヲ期シ得ナイ。結核相談所ニ於テハ種々ナル診断用施設ノ中デX線装置ガ最重要ノ地位ヲ占ムルモノデアルコトハ論ヲ俟タナイ。

從ツテ我々ハ少クトモ胸部ノX線診断ニ對シテハ最大ノ努力ト研鑽トヲ積ンダノデアツテ、此ノ方面ニ關シテハ些カ自負スルトコロガアル。

表ニ就テ計算シテミルト3年間ヲ通ジテ全訪所者ノ8割以上ニ「レントゲン検査ヲ施シテ居リ、之ハ結核相談所トシテ當然ノ事ナガラ機能ノ主力ヲ之ニ注イダ跡ガ窺ハレル。

又X寫眞撮影モ年ト共ニ多キヲ加ヘテキル。

上ノ如キX線ノ利用率ハ正ニ全國相談所ノ首位ニアル。

(6) 其ノ他ノ諸検査

検査ハ多ク患者カラノ要求ニヨツテ行ツテ居リ、赤沈検査ノ如キモ比較的長ク經過ヲ追求シ得ル見込ミノ患者ニ就テノミ行ツテ居リ、只1回ノ來所者ニ對シテハ殆ンド行ツテオラス。當所ニ於テ赤沈検査ノ對象トナツタモノハ多ク人工氣胸療法施行ノ患者デアル。「ツベルクリン反應ハ15歳以下ノ學童並ニ乳幼児ニ就テ行ツテ居リ成人ニ行ツタモノハ少數デアル。對象トナツタモノハ學校ヨリ依頼ノ集團検査、結核死亡者ノ遺家族其ノ他デアル。此ノ數字モ年ト共ニ漸増シテキル。試験方法ハ傳研製舊ツベルクリ

ン」1000倍溶液 0.1ccヲ皮内ニ接種シタ。

(7) 人工氣胸療法

人工氣胸療法ハ肺結核ニ對スル卓越セル療法デアルト同時ニ、周圍ニ對スル感染防遏ノ方法デモアル。其ノ意味ニ於テ全國ノ相談所デハ齊シク本療法ヲ施行シテキル。外來氣胸ノ可否ニ關シテハ議論ガアルガ、我々ハ適應症ヲ發見シタル場合ニハ、一應入院治療ヲ從憑シ、事情ニヨリ之ノ不能ナルモノニ對シテハ外來ニ於テ氣胸ヲ施行シテキル。氣胸療法ニ關スル成績ノ一部ハ既ニ著者等ノ一人竹谷ニヨツテ報告セラレテキル。全般ニ亙ツテノ報告ハ更ニ機會ヲ得テ發表シタイト考ヘテキル。

本表ニ於ケル數字ハ氣胸ノ延回数ヲ現ハシタモノデアツテ、昭和12年度ノ如キ1624回1日平均4人以上ニ當リ、相談所トシテ此ノ數字ハ些カ誇ルニ足ルモノガアル。

(8) 處置

處置トアルハ、塗咽、洗眼、外傷處置、胸液排除等デアツテ特ニ解説スベキコトハナイ。

(9) 太陽燈照射

徑7呎ノ太陽燈浴室ヲ設ケ、一定ノ照射カード」ヲ作り、兒童ヲ對象トシテ行ツテキル。之ハ昭和9年度ニ設備シタモノデ、10年度ニハ既ニ利用者延數1萬ヲ突破シテキル。

然シ12年度ニ至ツテ利用者數ガ半減シテキルノハ當時市内各小學校ニ於テ續々太陽燈ヲ購入設備シタタメト、他方同年「ツベルクリン反應陽性ノモノニ太陽燈照射ヲ行フ事ハ甚ダ危険ナリ」トノ浮説ガ巷間ニ行ハレタタメニ一時利用者ノ激減ヲ見タガタメト思ハレル。

第3章 新來病類數

第1節 結核性疾患

結核性疾患ニ關シテハ後編ニ於テ詳述スルノデ茲ニハ省略スル。只分類ノ法式ニ關シテ概説スルニ止メル。

(1) 第一次肺結核

之ハ初期變化群ノミヲ見ル場合デアツテ、時

間的經過ニヨツテ新鮮ナルモノヨリ全ク石灰化セルモノマデ種々ナル段階ガアリ、所謂軟性並ニ硬性初期變化群ノ凡テヲ包含スルモノデアル。從ツテ定型の小兒結核ニ屬スルモノモ一括シテ此ノ項目ニ算入シタ。

(2) 第二次肺結核

之ハ Ranke ノ第2 並ニ第3 期肺結核ニ相當スルモノデアツテ血行性播種像、肺尖結核、早期浸潤竈、通常ノ慢性肺癆等ヲ包括スル。

(3) 肋膜炎

濕性肋膜炎中ニハ通常ノ滲出性肋膜炎ノ外ニ所謂異型性肋膜炎ト稱セラル、包裹性肋膜炎、外套狀肋膜炎、葉間肋膜炎、縱隔竇肋膜炎等ヲモ含ンデキル。

(4) 肋膜癒着肥厚

甚ダ輕微ナルモノヨリ殆ンド全面ニ亘レル高度ノモノニ至ル肋膜癒着乃至肥厚ヲ含ム。

(5) 腹膜炎

獨立ノ形デ來タモノ並ニ肋膜炎ノ形デ來タモノノ中腹膜炎ノ症狀ノ勝レタモノハ之ニ算入シタ。

(6) 腸結核

胸部所見ガ甚ダ僅微デ腸症狀ノアルモノノミヲ之ニ入レタ。他ハ凡テ著明ナル肺變化ニ合併シタモノデ之ニハ算入シテキナイ。

(7) 腺結核

胸廓内淋巴腺以外ノ腺結核デアツテ、頸腺結核並ニ腸間膜淋巴腺結核ガ大部ヲ占メテキル。

(8) 其ノ他ノ結核

皮膚結核、結核性痔瘻、關節結核等ヲ含ム。

第2節 非結核性疾患

非結核性患者數ハ10年ヨリ11年ヘカケテ急激ニ増加シテキルガ、12年度ニ於ケル増加率ハ左程著クナイ。其ノ代リニ診察ノ結果異常ヲ認メザルモノノ數ガ3ケ年ヲ通ジテ躍進的增加ノ一途ヲ辿ツテキル。之ハ一般大衆ノ結核早期診斷ニ對スル理解ノ深マリト考フルコトガ出來ヤウ。非結核性疾患ノ中最多數ヲ占ムルモノハ消化道ノ疾患デアルガ、百分率カラ見レバ逐年減少ノ傾向ヲ示シテキル。然ルニ呼吸器、新陳代謝病(主トシテ脚氣)、神經系統ノ疾患等ガ漸次トツテ代ツテ頭角ヲ現ハシテ來テキル。呼吸器系統ノ疾患ニ就テハ言フ迄モナイガ、脚氣ハ既ニ初期ニ於テ全身倦怠、胸背痛等ノタメニ初期結核ヲ疑ハシメルモノデアリ、又神經系疾患ノ中肋間神經痛、肩胛部神經痛等ガ大部分ヲ占メ

テキルノデアルガ、之等モ其ノ疼痛ノ部位の關係ノタメニ肋膜炎乃至脊椎結核ヲ懸念セシムルモノデアルコトハ周知ノ事デアリ。斯ノ如キ疾患ガ非結核性疾患中ノ多クヲ占メテキル事ハ、結核相談所トシテ洵ニ興味深イモノガアル。

非結核性疾患ノ中デ内科的疾患以外ノモノハ、大抵各専門醫ニ送患シテ診斷ヲ乞フタモノデアリ。例ヘバ婦人科疾患ノ大部分ハ當市赤十字支部産院ヲ煩ハシタモノデアリ、又内科的疾患ニシテモ結核以外ノモノデX線検査ヲ要スルモノハ、當地大學病院ノ理學的診療科ニ依頼シタモノデアツテ、消化道ノ癌、潰瘍等ノ殆ンド凡テハ同科ノ診斷ニ俟ツタモノデアリ。其ノ他疾患ニ應ジテ市内ノ各専門開業醫ノ診斷ヲ受ケタモノモ少クナイ。茲ニ其ノ好意ヲ謝スル。

非結核患者ヲ分ケテ次ノ17種目トシタ。之ヲ更ニ病類別ニ細分シ、其ノ中ノ主ナルモノニハ3ケ年ヲ通ジテ月別、性別、並ニ年齢別表ヲ添附シタ。第4表ヨリ第19表マデガソレデアリ。以下逐次之ニ解説ヲ加フルコト、スル。

(1) 呼吸器系疾患(第4表)

實數、百分率共ニ年ト共ニ増加シテキル。此ノ中最モ多數ヲ占ムルモノハ氣管枝炎デアツテ、發熱、咳嗽、咯痰等ノ症狀ハ、殊ニ其ノ遷延セルモノニアリテハ一般人ヲシテ結核ヲ疑ハシムルモノデアリ、結核相談所トシテハ氣管枝炎患者ノ多數ニアルコトハ當然ノ現象デアラウ。

風邪、感冒等ノ診斷モ相當ニ多イガ、12年度ニ至ツテ其ノ數ヲ減ジテキル。

此ノ年ノ「カルテ」ヲ通覽スルト解熱ノ遅延シタ患者ガ多ク、之ハ矢張り繼續セル熱發ノ結果結核ニ疑ヲ置イテ訪所セルモノデアリ。

次ニ子供ノ百日咳ガ多イガ、之モ氣管枝炎同様特異ノ痙攣期ニ至ル以前ニハ、其ノ執拗ナル咳嗽ノタメ往々結核ヲ疑ハシムルモノデアリ。

月別ニ分類シテ見テモ特異ナ事象ハ認メラレナイ。一般疾病ト大約並行シテ増減シテキル様デアリ。年齢別ニ見ルト4歳カラ9歳迄ノ幼兒ニ最モ多イノハ氣管枝炎ニ由ル。

第4表 呼吸器系疾患

病類別	年 度			月 別			年 齡 別		
	10年度	11年度	12年度	月	男	女	年 齡	男	女
鼻 炎	9	10	19	I	73	82	0-4	185	145
蓄 膿 症	4	4	9	II	83	65	5-9	154	123
アデノイド	19	9	3	III	67	70	10-14	70	80
風 邪・感 冒	24	123	82	IV	76	97	15-19	140	103
氣 管 枝 炎	195	557	697	V	89	80	20-24	94	137
疫 咳	22	24	44	VI	95	100	25-29	71	117
肺 炎	4	7	8	VII	91	94	30-34	47	63
肺 氣 腫	3	5	9	VIII	80	82	35-39	52	64
氣 管 枝 喘 息	7	11	5	IX	87	102	40-44	36	42
横隔膜弛緩症	2	10	2	X	92	76	45-49	35	32
其 ノ 他	4	4	3	XI	75	65	50-54	26	17
				XII	58	59	55-59	18	22
總 數	293	764	881	計	966	972	60-64	19	18
新患者總數=對スル%	6.7	7.5	7.8				65-69	12	6
非結核患者總數=對スル%	10.3	10.5	10.0				70以上	7	3
							計	966	972

第5表 消化器疾患

病類別	年 度			月 別			年 齡 別		
	10年度	11年度	12年度	月	男	女	年 齡	男	女
口 内 炎	2	6	7	I	59	55	0-4	120	95
ア ン ギ ー ナ	8	7	6	II	64	54	5-9	89	45
扁桃腺炎	29	20	21	III	101	86	10-14	83	49
咽喉加答兒	32	34	42	IV	82	91	15-19	135	144
食道癌	0	0	4	V	116	123	20-24	130	169
胃加答兒	208	587	517	VI	137	153	25-29	130	143
腸炎	85	156	151	VII	174	190	30-34	107	98
胃腸加答兒	18	41	29	VIII	147	151	35-39	106	130
胃 潰 瘍	13	21	13	IX	122	155	40-44	80	106
胃下垂症	48	37	42	X	102	106	45-49	77	87
十二指腸潰瘍	3	7	13	XI	93	90	50-54	67	97
加答兒性黄疸	6	13	7	XII	51	52	55-59	48	73
膽石症	7	9	4	計	1258	1316	60-64	45	45
蟲様突起炎	9	12	17				65-69	22	24
移動盲腸	4	4	5				70以上	19	11
消化不良症	27	21	12				計	1258	1316
常習便秘	30	22	28						
直腸癌	0	0	3						
盆腸核	2	7	11						
痔核	2	10	6						
耳下腺炎	4	4	9						
其 ノ 他	8	25	12						
總 數	553	1060	961						
新患者總數=對スル%	12.6	10.5	8.5						
非結核患者總數=對スル%	19.5	14.7	10.9						

第 6 表 循環器系疾患

病類別	年 度			月 別			年 齡 別		
	10年度	11年度	12年度	月	男 女		年 齡	男 女	
					男	女		男	女
心 臟 瓣 膜 症	34	51	44	I	27	13	0-4	4	2
心 筋 炎	4	13	5	II	44	41	5-9	13	10
心 臟 神 經 症	0	6	17	III	42	37	10-14	10	9
心 臟 肥 大 症	10	18	7	IV	28	30	15-19	9	23
狭 心 症	2	0	5	V	30	44	20-24	17	27
大 動 脈 瘤	2	4	3	VI	34	45	25-29	16	27
大 動 脈 炎	10	15	5	VII	31	30	30-34	14	18
大動脈硬化症	10	29	25	VIII	34	29	35-39	23	26
動脈硬化症	79	145	125	IX	36	45	40-44	25	39
腦 溢 血	5	7	8	X	31	36	45-49	37	40
貧 血	21	21	10	XI	30	22	50-54	56	45
滴 状 心	0	5	0	XII	23	17	55-59	61	54
心 嚢 炎	0	5	0				60-64	56	36
高 血 壓 症	0	8	0	計	390	389	65-69	28	21
其 ノ 他	7	12	2				70以上	21	12
總 數	184	339	256				計	390	389
新患者總數ニ對スル%	4.2	3.4	2.3						
非結核患者總數ニ對スル%	6.5	4.7	2.9						

5歳カラ14歳迄ハ稍減ジテキルガ、15歳カラ24歳迄ガ再ビ多クナツテキルノハ、此ノ期間ハ所謂結核年齢デアツテ、從ツテ結核ニ關心ヲ有スルモノガ最モ多イ事ヲ物語ツテキル。

(2) 消化器疾患(第5表)

實數ニ於テハ非結核性疾患中ノ首位ニアルガ、百分率カラ見レバ年々減少ノ影響ニアル。

之ハ症狀ガ明カデ何等結核ト關係ノ存シナイ様ナモノハ漸次減少シタガタメデアツテ、之モ結核相談所認識ノーツノ顯レト見得ル。

消化道疾患ノ中最多數ヲ占ムルモノハ胃腸ノ加答兒性疾患デアツテ、ソレモ急性ノ激シイ症狀ヲ訴ヘテ來ルモノハ僅少デアツテ、慢性症トナリ食欲不振、倦怠、體重減少等初期結核ニ通有ナル苦訴ヲ以テ訪レルモノガ最モ多イ。

月別ニ見テ特異ナ點ハナイ。6月ヨリ8月ニカケテ多イ様デアルガ之ハ普遍的ナ現象デアル。年齢別ニ見テ○歳ヨリ4歳迄ノ間ニ相當多イノハ乳幼兒ノ消化不良症ガ大部分ヲ占メテキ

ルタメデアル。以後一度減少シテ15歳ヨリ40歳位ノ間ニ最モ多イ。

(3) 循環器系疾患(第6表)

百分率ハ年々低下シテキル。動脈硬化症並ニ瓣膜症ガ最モ多イ。動脈硬化症ハ患者ノ附添人乃至ハ結核死亡者家族ノ結核檢診ヲ行ツタ際發見シタ一種ノ副收穫デアル。瓣膜症ノ如キモ多クハ輕症デアツテ患者ノ自覺セザルモノガ多ク、偶然ノ發見ニ係ルモノガ多イ。

月別ニハ特ニ記載スベキ事ガナイ。年齢的ニ見テ50歳ヨリ64歳迄ノ間ニ多イノハ動脈硬化症ノ多イタメデアル。

(4) 神経系疾患(第7表)

此ノ中多數ヲ占ムルモノハ神經衰弱症並ニ神經痛殊ニ肩胛部及肋間神經痛並ニ腰部神經痛デアル。神經衰弱症ハ多ク青壯年者ニ來リ、倦怠、食思不振、不眠等ノ症狀ハ其ノ年齢ト併セテ時ニ初期結核ヲ疑ハシムル。但シ此ノモノノ百分率ハ12年度ニ至ツテ急激ニ減少シテキル。

第7表 神経系疾患

年度 病類別	10年度	11年度	12年度	月別(3年通計)			年齢別(3年通計)		
				月	男	女	年齢	男	女
早發性痴呆症	5	3	4	I	51	36	0-4	8	4
神經衰弱	51	183	100	II	43	47	5-9	5	6
半身不隨	2	2	0	III	51	55	10-14	13	8
脊髓炎	0	8	2	IV	39	53	15-19	106	111
小兒麻痺	0	4	1	V	58	85	20-24	118	126
脊髓癆	2	10	5	VI	77	96	25-29	101	95
顔面神經麻痺	0	9	4	VII	71	88	30-34	79	99
三叉神經痛	0	13	0	VIII	51	69	35-39	54	86
偏頭痛	2	4	11	IX	60	67	40-44	44	53
多發神經痛	31	44	29	X	58	67	45-49	41	55
肩胛部神經痛	37	84	121	XI	66	72	50-54	33	55
肋間神經痛	52	176	205	XII	39	38	55-59	29	34
腰部神經痛	18	53	58				60-64	19	22
坐骨神經痛	10	39	21	計	664	773	65-69	9	10
職業的麻痺	0	4	0				70以上	5	9
其ノ他	9	17	4				計	664	773
總數	219	653	565						
新患者總數ニ對スル%	5.0	6.5	4.9						
非結核患者總數ニ對スル%	7.7	9.1	5.0						

第8表 新陳代謝・内分泌系疾患

年度 病類別	10年度	11年度	12年度	月別			年齢別		
				月	男	女	年齢	男	女
脚氣	167	723	1027	I	18	33	0-4	56	51
糖尿病	1	25	17	II	25	36	5-9	7	18
甲状腺腫・バセドウ病	9	16	15	III	27	46	10-14	33	50
佝僂病	13	26	27	IV	31	54	15-19	163	221
				V	46	93	20-24	137	232
總數	190	790	1086	VI	79	165	25-29	81	215
新患者總數ニ對スル%	4.3	7.8	9.6	VII	122	180	30-34	72	151
非結核患者總數ニ對スル%	6.6	11.0	12.3	VIII	155	212	35-39	47	122
				IX	131	174	40-44	60	86
				X	90	120	45-49	25	44
				XI	53	98	50-54	41	28
				XII	27	51	55-59	33	21
							60-64	28	14
				計	804	1262	65-69	9	7
							70以上	12	2
							計	804	1262

次ニ上記ノ種々ナル神經痛ハ、疼痛ノ部位的關係ヨリ屢々肺尖結核、肋膜炎、脊椎結核ヲ疑ハシムルモノデアルコトハ周知ノ事デアリ、事實之等患者ノ大部分ハ上記結核性疾患ヲ疑ツテ來所シタモノデアル。

尙ホ表ニ就テ見得ル通り、爾他ノ神經系疾患ノ殆ンド全部ハ12年度ニ至ツテ減少シテキル中ニ上記神經痛ノミハ實數、百分率共ニ増加ヲ示シテキルコトハ、來所者ノ目的ガ漸次結核相談所本來ノ希望ニ近ヅキツ、アル事ヲ示スモノトシテ洵ニ興味深イモノガアル。

月別ニハ一般疾病ノ増減ト並行シテキル様デアル。年齢別ニ見ルト結核ニ最モ關心ノ深カルベキ15歳ヨリ29歳迄ノ青壯年層ニ多イノガ注目サレル。

(5) 新陳代謝、内分泌系疾患(第8表)

實數、百分率共ニ年々増加ノ一途ヲ辿ツテキル。數ニ於テ消化器疾患ニ次イデキル。内分泌系ノ疾患ハ甚ダ僅少デアル。大部分ハ脚氣症ニヨツテ占メラレテキル。脚氣ニ次デ「ヴェタミン」缺乏症ノ最多數ヲ占ムル尙僂病ノ如キハ、大部分太陽燈照射ヲ希望シテ來所シタモノデアル。

脚氣ハ其ノ症狀未ダ顯著ナラザル初期乃至潜伏期ニ於テ既ニ全身倦怠、氣力減退、胸背痛等ノタメニ屢々結核ヲ疑ハシムルモノデアル。

殆ンド凡テハ初期ノモノデアリ、シビレ感乃至浮腫等ノ存在スルモノハ僅少デアツテ、來所ノ目的モ結核ニ懸念ヲ有スルモノガ大多數デアル。季節的ニ觀ルト7月ヨリ9月ニカケテ脚氣ノ頻發期ニ急ニ増加シテキル。女ニ多イノガ目立ツ。

年齢ノ點デハ15歳ヨリ24歳迄ノ所謂結核年齢ニ殊ニ多イガ、之ハ此ノ年齢ニ於ケルモノガ特ニ結核ニ關心ヲ有ツテ多ク來所スルカラデアラウ。

(6) 泌尿器系疾患(第9表)

腎臟炎ガ絕對多數ヲ占メテキル。然シ病狀ノ顯現性ノモノハ少ク、多クハ漫然ト全身遠和ヲ訴ヘテ來所シ、初メテ發見サレタモノデアル。

第 9 表

病 類 別	10年度	11年度	12年度
腎 臟 炎	68	113	178
遊 走 腎	3	2	4
腎 盂 炎	17	5	8
膀胱カタル	5	21	27
夜 尿 病	0	6	5
腎 臟 結 石	2	0	0
其 ノ 他	8	9	0
總 數	103	156	222
新患者總數ニ對スル%	2.6	1.5	2.0
非結核患者總數ニ對スル%	3.6	2.2	2.5

(7) 婦人科の疾患(第10表)

第 10 表

病 類 別	10年度	11年度	12年度
妊 娠	24	31	13
子宮内膜炎	3	10	15
子宮後屈	9	12	14
子宮發育不全	0	6	8
子宮筋腫	2	3	4
子宮癌	0	2	0
子宮外膜炎	4	0	0
附屬器炎	12	52	38
卵巢囊腫	0	3	4
卵巢機能不全	11	10	4
更年期障害	11	0	3
乳 癌	0	3	0
其 ノ 他	6	11	3
總 數	82	143	106
新患者總數ニ對スル%	1.9	1.4	0.9
非結核患者總數ニ對スル%	2.9	2.0	1.2

百分率ハ年ト共ニ減ジテキル。

妊娠ト附屬器炎ガ最モ多イ。妊娠ノ中ニハ他醫ニヨリ肺尖カタル乃至肺門淋巴腺炎等ノ診斷ヲ受ケ、妊娠繼續ノ可否ニ關シ相談ニ來所シタモノガ相當ニアル。

附屬器炎ハ殆ンド凡テ慢性ノモノデアツテ、其ノ遷延セル疼痛乃至微熱ノタメ結核性腹膜炎ヲ懸念シテ來所シタモノガ大部分デアル。

尙ホ緒言ニ於テ述ベシ通り、之等ノ診斷ノ殆
 ンド凡テハ金澤市ニアル日本赤十字支部産院ノ
 手ヲ煩ハシタモノデアアル。

(8) 皮膚科の疾患(第11表)

第 11 表

病 類 別	10年度	11年度	12年度
濕 疹	22	34	17
癩 癰	4	9	15
蕁 麻疹	6	11	19
疥 癬	3	3	0
丹 毒	4	1	6
圓形禿頭病	6	10	8
帶狀疱疹	0	0	2
水 痘 症	2	5	0
蜂窩樣織炎	0	4	0
各部淋巴腺炎	23	11	24
淋巴肉腫	2	4	2
黴 毒	8	22	10
淋 疾	9	7	6
第 四 性 病	0	0	2
其 ノ 他	9	45	17
總 數	98	166	128
新患者總數ニ對スル%	2.2	1.6	1.1
非結核患者總數ニ對スル%	3.4	2.3	1.5

第 12 表

病 類 別	10年度	11年度	12年度
骨 折	2	6	5
捻 挫	5	13	11
打 撲	12	45	59
關節ロイマチス	19	32	54
筋肉ロイマチス	7	9	4
膝 關 節 炎	7	11	11
股 關 節 炎	2	12	3
足 關 節 炎	2	13	7
其ノ他ノ關節炎	0	0	4
腱 鞘 炎	0	8	0
筋 炎	0	3	4
骨 膜 炎	1	3	2
其 ノ 他	4	4	5
總 數	61	159	169
新患者總數ニ對スル%	1.4	1.6	1.5
非結核患者總數ニ對スル%	2.2	2.2	1.9

濕疹、圓形禿頭病、表在性淋巴腺腫脹等ガ多ク、大部分太陽燈照射ノ對象トナツタモノデアアル、勿論相談所ノ希望スベキ性質ノ患者デハナイノデ、百分率ハ年ト共ニ減少シテキル。

(9) 骨及運動器疾患(第12表)

打撲傷及關節ロイマチス」ガ多イ、打撲傷ノ多クハ骨折等ノ疑ヲ以テ「レントゲン検査ヲ希望シテ來タモノデアアル、關節ロイマチス患者ノ中ニハ結核性關節炎ヲ誤認シテ來タモノモ少クナイ。

(10) 傳染性疾患(第13表)

第 13 表

病 類 別	10年度	11年度	12年度
腸チフス	0	1	0
デフテリー	1	2	1
麻疹	3	12	4
マラリヤ	1	6	7
水痘	5	6	8
總 數	10	27	20
新患者總數ニ對スル%	0.2	0.3	0.2
非結核患者總數ニ對スル%	0.4	0.4	0.2

麻疹、水痘ノ如キガ目立ツテキルガ、大部分ハ發疹發現以前ノ體溫上昇ヲ訴ヘテ來所シタモノノデ、兩3回ノ通院ヲナサシメテ確診シタモノデアアル。

(11) 視器、聽器、體質、寄生蟲病(第14表—第17表)

第 14 表

病 類 別	10年度	11年度	12年度
結 膜 炎	6	7	4
ト ラ ホ ー ム	0	2	2
近 視	1	1	3
實質性角膜炎	5	0	2
色 盲	0	0	3
夜 盲 病	0	0	2
總 數	12	10	16
新患者總數ニ對スル%	0.3	0.1	0.1
非結核患者總數ニ對スル%	0.4	0.1	0.2

第 15 表

病 類 別	10年度	11年度	12年度
中 耳 炎	6	17	22
其 ノ 他	5	9	0
總 數	11	26	22
新患者總數ニ對スル%	0.3	0.3	0.2
非結核患者總數ニ對スル%	0.4	0.4	0.2

第 16 表

病 類 別	10年度	11年度	12年度
虛 弱 體 質	25	34	5
滲 出 性 體 質	3	1	1
總 數	28	35	6
新患者總數ニ對スル%	0.6	0.3	0.1
非結核患者總數ニ對スル%	1.0	0.5	0.1

第 17 表

病 類 別	10年度	11年度	12年度
十二指腸蟲病	30	16	9
蛔 蟲 病	16	37	6
蟯 蟲 病	6	6	3
總 數	52	59	18
新患者總數ニ對スル%	0.2	0.6	0.2
非結核患者總數ニ對スル%	1.8	0.8	0.2

大部分ハ學童ノ集團結核檢診等ニ際シテノ副收獲デア。百分率ハ平均シテ年ト共ニ減ジテキル。

(12) 病名未定ノモノ(第18表)

第 18 表

病 類 別	10年度	11年度	12年度
前掲各項目ニ屬セザル疾病	9	15	15
新患者總數ニ對スル%	0.2	0.1	0.1
非結核患者總數ニ對スル%	0.3	0.2	0.2
病名未定ノモノ	295	240	155
新患者總數ニ對スル%	6.7	2.4	1.4
非結核患者總數ニ對スル%	10.4	3.3	1.9

昭和10年度ノ上半期ニハマダX線装置ノ設備ガナカツタノデ、X線検査ノ要アル患者ハ凡テ大學理學的診療科ヘ送ツテ診斷ヲ乞フテキタノデア。此ノ場合ハ豫メ患者ニ「ツベルクリン反應ヲ施シ、翌々日再ビ來所セシメテ大學ヘ送患スルノ方法ヲ探ツテキタノデア。」「ツ反應ヲ施行シタノミデ二度目ノ來所ヲシナイモノガ相當アツタノデ、之等ハ全部病名未定ノ部ヘ算入シタ。以後ノ年度ニハ急激ニ減少シテキル。

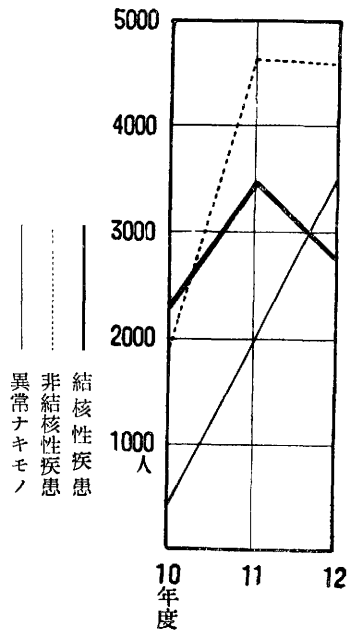
(13) 異狀ヲ認メザルモノ(第19表)

第 19 表

病 類 別	10年度	11年度	12年度
異常ヲ認メザルモノ	627	2548	4197
新患者總數ニ對スル%	14.3	25.3	37.1
非結核患者總數ニ對スル%	22.2	35.4	47.6

之ハ結核檢診ノ結果何等病の變化ヲ認メ得ナカツタモノノ數デア。結核患者乃至結核死亡者家庭ノ結核檢診、學校、諸會社、官公署等ノ健康調査ニ際シテ得タ數ガ大部分ヲ占メテキ

第 1 圖



ル。死亡者家族ノ健康診斷ダケハ當方ヨリ積極的ニ勸誘シタモノデア。其ノ他ハ凡テ先方

ヨリノ依頼ノモノデアリ、表ニ見ル如ク實數、百分率共ニ年々急激ナル増加振ヲ示シテ居リ、12年度ノ如キハ非結核性患者總數ノ約半數ヲ占メテ居ル。斯ノ如キハ結核早期診斷ニ對スル一般社會ノ理解ガ年ト共ニ深マリツ、アル事ヲ如實ニ物語ルモノデアツテ、我等結核豫防ニ

志スモノノ意ヲ強メシムルモノガアル。

最後ニ第1圖ハ3年間ヲ通ジテノ結核性疾患、非結核性疾患並ニ異狀ヲ認メザルモノノ數ノ動搖ヲ圖シタモノデアル。

第3節 年齢別並ニ月別ニ觀タル成績

非結核性疾患ノ中主ナル系統ニ屬スルモノ

第 2 0 表

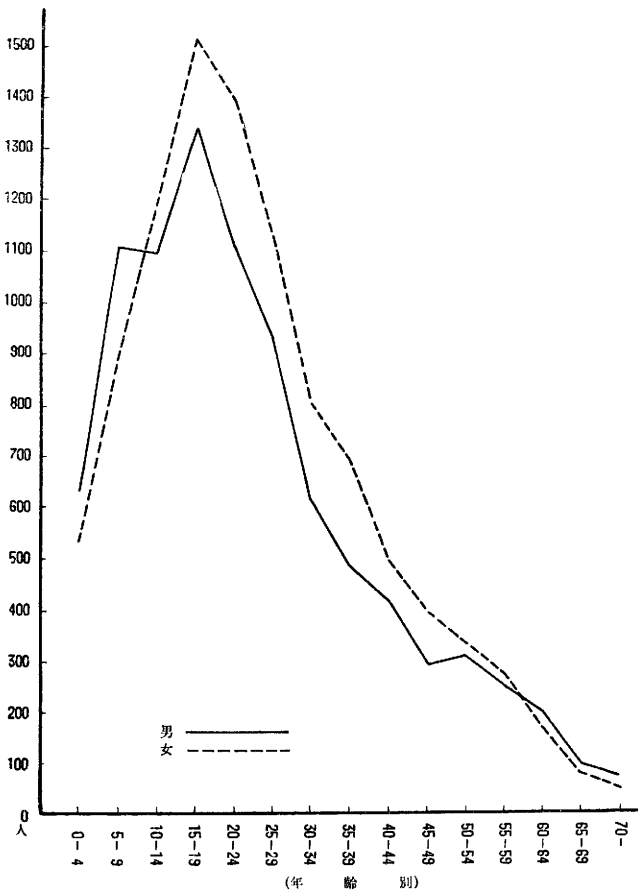
病 別	年 齡 別													70—	
	0—4	5—9	10—14	15—19	20—24	25—29	30—34	35—39	40—44	45—49	50—54	55—59	60—64		65—69
呼吸器	185	154	70	140	94	71	67	52	36	35	26	18	19	12	7
消化器	145	123	80	103	137	117	63	64	42	32	17	22	18	6	3
循環器	120	89	83	135	130	130	107	106	80	77	67	48	45	22	19
神経系	95	45	49	144	169	143	98	130	106	88	97	73	45	24	11
婦人科	4	13	10	9	17	9	21	23	25	37	56	61	56	28	21
皮膚	2	6	9	23	27	27	18	26	39	40	45	54	36	21	12
内分	8	7	13	106	108	101	79	54	44	41	33	29	19	9	5
新陳代謝	4	6	8	108	130	95	99	86	53	55	55	34	22	10	9
泌尿器	0	2	1	9	65	73	56	43	31	30	21	4	1	1	1
骨. 體	42	36	22	12	23	30	12	11	9	8	10	6	2	2	2
運動	32	26	14	18	26	16	7	15	6	4	2	4	2	2	0
實質器	56	7	33	163	137	81	72	57	51	25	41	33	28	9	12
器	51	18	50	221	241	215	151	122	86	44	28	21	14	7	2
器	6	15	17	26	9	14	12	16	15	10	15	13	7	9	7
染	4	12	19	29	35	48	28	25	20	29	11	16	9	3	3
毒	8	12	21	26	18	26	22	19	19	8	9	10	7	2	1
生	10	8	10	18	21	10	22	11	10	14	14	15	8	2	4
他	11	15	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノ	12	11	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3	3	5	2	2	1	2	1	2	0	2	0	0	0	0
總	4	0	1	4	0	0	1	2	1	1	0	1	0	0	0
	7	4	6	4	3	3	1	1	0	1	0	2	0	1	0
	3	4	2	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12	6	2	3	3	1	0	0	2	1	2	1	0	0	0
	14	7	0	0	0	1	1	0	2	1	0	0	0	0	0
	6	18	12	2	3	3	2	2	2	1	2	1	0	0	0
	7	16	16	7	2	5	4	7	7	2	3	1	1	1	0
	163	724	792	706	556	462	214	142	91	60	45	29	17	5	2
	152	616	931	827	541	381	256	166	89	58	44	25	10	7	7
	631	1106	1095	1334	1103	932	611	483	414	293	306	250	200	99	76
	535	900	1196	1513	1398	1132	806	695	493	400	337	270	166	84	52

ハ、既ニ前節ニ於テ年齢別並ニ月別表ヲ添附シテ置イタ。次ニ掲グルモノハ、3年間ヲ通計シテノ非結核患者ノ總和ヲ年齢別並ニ月別ニ觀察

シタモノデアアル。

年齢別成績ハ第20表及第2圖ニ見ル如クデアアル。此ノ中「其ノ他」ノ項目ニ屬スルモノ即チ異

第 2 圖



常ヲ認メザルモノノ數ガ5歳ヨリ19歳迄ノ間ニ於テ著シク多イノハ、主トシテ學童、生徒ノ結核檢診ガ多イタメデアアル。然シ全般ニ見ルト、15歳ヨリ24歳迄ノ間ニ於テ頂點ヲナシテ居リ、其ノ前後ニ於テハ比較的急激ニ其ノ數ヲ減ジテキルノガ見ラレ、殊ニ高年ニ近ヅクニ從ツテ著減シテキルノが目立ツ。前ニモ言及セル如ク、15歳ヨリ24歳迄ハ所謂結核年齢ト稱セラル、期間デアツテ、此ノ時代ニ於ケル結核ノ發病

率ガ最モ多ク、世俗的ニモ此ノ事實ガ一般ニ知ラレテキルガタメニ、結核ニ對スル關心モ之等ノ年齢ノ人々ニ於テ最モ深イモノガアリ、從ツテ結核相談所ノ來訪者ガ少青年層ノ人達ニヨツテ其ノ大半ヲ占メラレテキル事ハ當然ノ事デアリ又最モ望マシイコトデアアル。

次ニ非結核患者ヲ月別ニ觀察スルト、(第21表及第3圖参照)大略冬期ニ少ク夏期ニ多イ結果ヲ示シテ居リ、此ノ點一般病院ニ於ケル季節

第 2 1 表

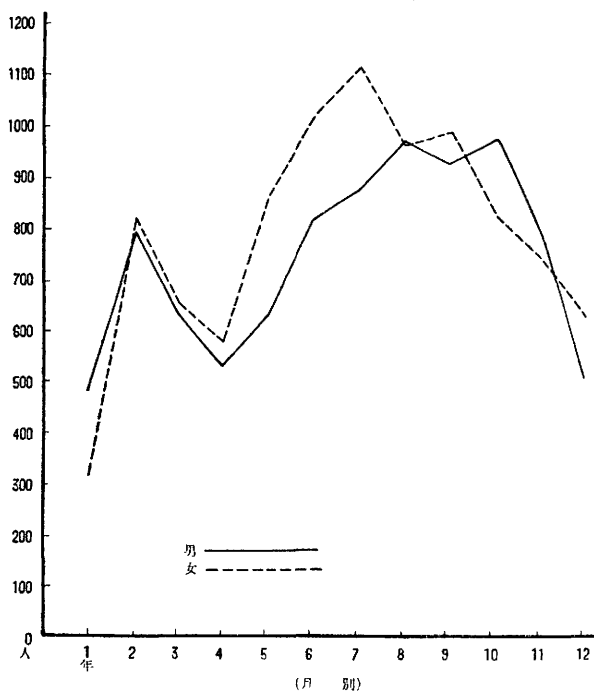
病 別	I		II		III		IV		V		VI		VII		VIII		IX		X		XI		XII	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
呼 吸 器	73	82	83	65	67	70	76	97	89	80	95	90	91	94	80	82	87	102	92	76	75	65	58	59
消 化 器	59	55	66	54	101	86	82	91	116	123	137	153	174	190	147	171	122	155	122	106	93	90	51	52
循 環 器	27	13	44	41	42	37	28	32	30	44	34	45	31	30	34	29	36	45	31	36	30	22	23	17
神 經 系	51	36	43	47	51	55	39	53	58	85	77	96	71	88	61	69	60	67	58	67	66	72	39	38
婦 科	14	14	13	13	33	33	24	24	44	44	39	39	50	50	37	27	27	24	24	24	16	16	13	13
皮 膚	16	4	15	6	14	7	16	13	25	18	23	17	23	17	18	21	20	21	19	20	16	12	16	13
新 陳 代 謝	18	7	25	36	27	46	31	54	46	93	79	165	112	180	155	212	131	174	90	129	53	98	27	51
尿 道	13	12	11	26	12	23	19	31	16	32	18	23	15	28	20	24	19	29	17	33	19	16	12	14
骨 節	10	10	16	11	11	12	23	10	22	24	25	22	16	16	21	15	23	18	23	16	13	16	5	6
運 動 體	1	3	1	0	4	4	6	0	5	3	3	4	4	1	2	5	2	4	4	4	4	2	2	2
視 覺	3	0	1	0	1	0	3	3	1	0	3	0	1	3	2	1	4	4	1	0	2	2	1	2
聽 覺	3	1	4	1	2	3	3	2	3	1	1	1	0	1	2	4	4	2	9	6	3	0	1	2
傳 染 病	0	0	1	0	1	1	2	2	5	3	7	5	5	5	2	5	4	1	2	1	2	2	0	1
蟲 咬	1	4	1	2	1	5	1	3	6	5	12	14	9	12	6	15	6	3	6	6	3	3	2	3
其 他	208	81	484	517	304	273	202	172	208	306	304	347	322	396	419	273	404	335	491	299	402	332	265	355
總 計	483	322	795	819	638	655	531	587	630	861	818	1021	874	1111	969	963	987	965	823	781	748	502	628	628

的變動ト變ルトコロガナイ。殊ニ夏ヨリ秋ヘカケテハ潜在性ノ脚氣ガ甚ダシク多イコトハ、前節ニ於テ述ベタトコロデア。又此ノ期ニ於テハ消化器病ノ如キモ少クナイ。

只第3圖ニモ見ラル、如ク、2月ニ於テツ

ノ山ヲ作ツテキル事ハ多少奇異ニ感ゼラレルガ、之ハ學童ノ健康相談ニ由因スルモノデアツテ、卒業期又ハ新學年ヲ控エテ激シイ勉學又ハ訓練ニ堪エ得ラレル否ヤ等ニ關スル個人的又ハ團體的ノ相談ガ此ノ月ニ多イタメデア。

第 3 圖



3月ノ如キ切迫シタ時期ヨリモ却ツテ2月ニ
此ノ種相談ノ多イノハ些カ興味ヲ覺ユルモノガ
アリ、斯ル點ニ於テ、一般病院ニ對スル結核相
談所ノ特殊性ガ窺ハレル。

第4章 郡市別ニ觀タル患者數

第22表ハ3年間ニ於ケル患者總數(結核患者
モ含ム)ヲ郡市別ニシ、更ニ季節ニヨル患者ノ

第 22 表

郡市別 月別	金澤市	石川郡	河北郡	能美郡	江沼郡	羽咋郡	鹿島郡	鳳至郡	珠洲郡	郡部計	總計
I	1104	78	80	15	4	13	8	9	3	210	1314
II	1923	93	128	20	4	14	17	7	2	285	2208
III	1480	150	181	47	14	21	24	17	9	463	1943
IV	1368	125	189	50	11	22	30	14	4	445	1813
V	1917	137	210	40	6	28	15	19	5	460	2377
VI	2146	176	274	41	14	29	28	19	9	590	2736
VII	2189	171	258	41	14	32	35	22	17	590	2779
VIII	1901	122	283	61	22	43	33	25	17	706	1607
IX	2000	129	186	37	11	9	16	14	4	406	2406
X	1869	78	164	38	9	15	14	15	5	338	2207
XI	1602	81	120	29	8	21	15	11	2	287	1889
XII	1292	44	77	26	4	14	15	6	3	189	1481
計	20791	1484	2150	445	121	261	250	178	80	4969	25760

動キヲ觀察シタモノデアル。

相談所創設ノ當初ニ於テハ、其ノ存在ガ一般ニ認識セラズ、郡部カラノ來所ハ洵ニ僅少デアツタ。爾來年ヲ追フテ増加ノ傾向ヲ示シテハキルガ、尙ホ郡部患者ノ總數ガ金澤市内患者ノ $\frac{1}{4}$ ニ過ギナイ。地方別ニ見ルト石川、河北ノ如キ市ニ近接ノ郡ニ於ケル訪所者ガ最モ多ク、遠隔ニナルニ從ツテ其ノ數ヲ減ジテキルノハ自然ノ勢デアル。次ニ患者數ヲ季節ニヨツテ分ケテミルト、其ノ動搖ハ市部ニ於ケルヨリモ郡部ニ於テ著シイモノガアル。郡部ニアツテハ冬期ニ

於ケル患者減少率ハ市部ヨリモ著シイノハ、積雪其ノ他ノタメニ出足ガ阻マレルタメデアラウ。3月、4月ニ至ツテ比較的急激ニ増加ヲ示スガ、5月、6月ニ於ケル増加率ハ市部ニ於ケル程著明デナイノハ農家ノ田植ト關係ガアルト考ヘラレル。7月、8月ノ農閑期ニ於ケル増加率ハ、市部ノ此ノ季ニ於ケルソレヨリモ大ナルモノガアル。9月ヨリ11月ヘノ收穫期ニハ再び比較的急激ニ減少シテキル。即チ郡部患者ノ季節的動キハ農業ノ繁閑ト密接ナル關係ヲ有シテキル事ガ窺ハレル。

結 論

1) 本編ハ昭和10年ヨリ同12年ニ至ル石川縣健康相談所ニ於ケル諸種事業成績並ニ非結核性疾患ニ就テノ統計報告デアル。

2) 來訪患者數八年々増加ノ一途ヲ辿ツテ居リ、一般機能モ年ト共ニ發展充實ヲ示シテキル。殊ニ「レントゲン検査、人工氣胸等ニ於ケル數字ハ些カ誇ルニ足ルモノガアル。

3) 非結核性疾患ニ於テモ呼吸器系ノ疾患ハ勿論、潜伏乃至初期脚氣、或ル種ノ神經痛ノ如キ結核ニ通有ノ苦訴ヲ有スルモノガ漸増シ、之ニ反シ一見結核ト何等關係ヲ有セザルガ如キ疾患ハ漸次其ノ數ヲ減ジテキルノハ、結核豫防相談所ノ性質ガ漸次一般ニ理解サレツ、アル證左ト見做シ得ル。

4) 來所者中診察ノ結果、異常ヲ發見シ得ザルモノノ數ガ年々激増シテキルノハ、個人乃至團體ノ結核檢診ガ多クナツタ結果デアツテ、之又結核早期診斷ニ對スル一般ノ理解ノ深マリト

考ヘラレル。

5) 非結核患者ヲ年齢的ニ見ルト、所謂結核年齢ト稱セラル、15歳ヨリ24歳迄ノ間ニ於テ頂點ヲ示シ、其ノ前後ハ比較的急激ニ減少シテキル。即チ此ノ期間ノ年齢ニアルモノガ結核ニ對シテ最モ多クノ關心ヲ有シテキルコトガ示サレテキル。

6) 非結核患者ノ季節的動キハ一般病院ニ於ケルト大差ハナイ様デアルガ、只一般病院ノ比較的閑散ナルベキ2月ニ相當多イ數字ヲ示シテキルノハ、卒業期乃至新學年ヲ控エテノ學童ノ健康相談ガ多イタメデアツテ、斯ル點ニ於テ一般病院ニ對スル相談所ノ特殊性ガアル。

7) 郡部患者ノ季節的動キガ市部患者ノソレヨリモ大キイノハ農業ノ繁閑ト密接ナル關係アリト察セラレル。

稿ヲ終ルニ當リテ恩師大里教授ノ御校閲ヲ謹謝ス。